

地域を彩る食物語に出展

(社会連携推進センター)

1月13日(水)から18日(月)までの間、人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語(大学からの発信こだわりのあるおいしいもの販売!!)」が開催されました。

今年で6回目となるこのイベントは、北見市産学官連携推進協議会が主催し、本学は共催として参画しているものです。北見市のコミュニティプラザパラゴまちきた大通ビルを会場に、例年、高知物産展と同時開催されています。

本学からは、機械工学科の星野洋平准教授が「オホーツク地域から発信する農業・機械・情報産業の集積と融合による次世代農業の可能性」と題して講演を行った他、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエーター育成事業の成果を報告しました。本学の他にも長崎大学、香川大学、宇都宮大学、東京農

業大学、帯広畜産大学が出展し、また、パネル展示では新たに愛媛大学が参加しました。

また、14日(木)、15日(金)の両日には、各大学で行われている人材育成事業の受講生による、恒例のプレゼンテーションと開発商品の販売が行われました。さらに16日(土)以降は、受講生の販売実習を兼ねて、北見丸麦緑茶や白花豆カステララスク等開発品の市場調査が行われました。

本イベントは、全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを地域の多くの方々に理解していただく良い機会となりました。また、参加大学・機関にとっても、「食と健康」「人材育成」をキーワードとする地域興しの意識を広く共有し、それぞれの活動を発展させるための有益な機会となりました。



講演する星野准教授



学生による開発品の市場調査



会場の様子